

第7号議案 2007年度事業計画に関する件

1. 学術集会，学術講演会等の開催

1) 年次学術集会

第54回学術集会として2007年5月31日(木)～6月2日(土)，札幌コンベンションセンターにて開催予定．テーマは「学問に対する意欲を高め，個性を育む」

2) 支部の学術集会

各支部で合計8回の学術集会を開催する予定．

- ・ 第55回北海道地区学術集会(主催：森本 裕二) 2007年9月8日(土) 北海道大学医学部臨床大講堂
- ・ 第64回東北地区学術集会(主催：廣田 和美) 2007年9月15日(土) 青森県観光物産館アスパム
- ・ 第47回関東甲信越・東京支部合同学術集会(主催：崎尾 秀彰) 2007年9月22日(土) 栃木県総合文化センター
- ・ 東海・北陸支部第5回学術集会(主催：山本 健) 2007年9月1日(土)・2日(日) 金沢市文化ホール
- ・ 第53回関西支部学術集会(主催：豊田 芳郎) 2007年9月1日(土) 大阪国際交流センター
- ・ 第44回中国四国支部学術集会(主催：坂部 武史) 2007年9月22日(土) 海峡メッセ下関
- ・ 第45回九州支部学術集会(主催：須加原 一博) 2007年11月3日(土) 沖縄コンベンションセンター

3) 教育講演の開催

第6回リフレッシャーコースとして2007年6月2日(土)，札幌コンベンションセンターで開催予定．

2. 学会誌その他の刊行物の発行

1) 学会誌

「Journal of Anesthesia」誌を季刊で4号(Vol.21-No.2～Vol.22-No.1)を発行予定．

2) 準学会誌

「麻酔」誌を月間で12号(Vol.55-No.4～Vol.56-No.3)を発行予定．

3) 学会ニューズレター

社団法人日本麻酔科学会ニューズレターを季刊で4号(Vol.15-No.2～Vol.16-No.1)を発行予定．

4) 学術集会抄録およびプログラム

社団法人日本麻酔科学会第54回学術集会抄録集およびプログラムを発行予定．

5) 会員名簿および年次報告

2007年度会員名簿および年次報告をホームページに掲載予定．

6) 教育講演テキスト

2008年開催の第7回リフレッシャーコーステキストを発行予定．

3. 学会認定医等の認定

1) 認定医等の資格試験の実施

2007年10月5日～10月7日，神戸ポートピアホテルにて第46回麻酔科専門医認定試験を実施予定．

2) 認定医等の資格審査

通年（4月，7月，10月，1月）：新規認定審査および新規認定病院審査

2007年10月：新規麻酔科指導医審査（申請期間：2006年7月1日～8月31日）

2007年12月末：2008年4月1日麻酔科専門医更新予定者および麻酔科認定病院更新予定施設の審査会開催予定．

4．研究の奨励及び研究業績の表彰

社団法人日本麻酔科学会学会賞4賞（山村記念賞・社会賞・若手奨励賞・華岡青洲賞）の2007年度受賞予定者の選考を行う予定．

5．研究及び調査の実施

1）麻酔関連偶発症例調査

全麻酔科認定病院を対象に行う予定．2005年調査の解析発表完了．2006年各項目解析結果発表．2007年調査実施．

2）麻酔関連機器故障情報調査

麻酔関連機器で故障が発生した場合，あるいは規格自体に問題がある機器に関して，会員からの情報を収集し，必要な調査を実施したうえで，HPを通じたフィードバックを行う．

3）周術期肺血栓塞栓症発症例調査

全麻酔科認定病院を対象に行う予定．2005年調査の解析発表完了．2006年各項目解析結果発表．2007年調査実施．

4）麻酔関連薬剤の投与に関するインシデント調査

全麻酔科認定病院を対象に行う予定．2005年調査，2006年調査の解析結果発表．2007年調査実施．

5）麻酔関連機器 JIS 規格に関する検討

ISO 4135 Third edition Anaesthetic and respiratory equipment Vocabularyの翻訳．

6）薬剤乱用防止、回復支援施策の検討

薬剤依存の早期発見に向けた相談窓口の継続、回復支援研究会(仮称)の設置を行う予定．

7）厚生労働科学研究費補助金 こころの健康科学研究事業

「複雑性局所疼痛症候群(CRPS)の診断基準作成と治療法に関する研究」(主任研究者 真下 節)
研究最終年度にあたり，診断基準の作成と治療法の提唱，および，これに関連する広報活動を行う．

8）ACLS インストラクターコース，BLS 講習会および ACLS 講習会の実施

本部では BLS 講習会，ACLS のインストラクター養成を行う．各支部では，BLS 講習会，ACLS 講習会を開催する．

6．関連学術団体との連絡及び協力

1）登録・派遣

日本学術会議，日本医師会，日本医学会，厚生労働省医道審議会標榜医審査会，日本専門医認定機構，大学評価・学位授与機構，日本外科学会，外科系医学会社会保険委員会連合，外科関連

協議会，日本救急医療財団，日本蘇生協議会，3学会合同呼吸療法士認定委員会，医療機能評価機構，骨髄移植推進財団，臓器移植ネットワーク等に委員を派遣し，各々の目的と事業に合わせ連携・協力予定．

2) 各種学術集会協賛・後援

日本学術会議シンポジウム，日本臨床麻酔学会市民公開講座，社団法人日本 ME 学会 ME 技術講習会・検定，財団法人日本救急医療財団「救急の日 2007」等，バイオメディカルファジィシステム学会学術集会等，関連協力団体の学術集会および講習会，市民公開講座等を協賛・後援予定．

7. 国際的な研究協力の推進

1) 世界麻酔学会(WCA)

世界麻酔学会理事および各種委員会委員を派遣．要請に応じて途上国への教育援助を行う．2016 年に開催される WCA の誘致を行う．

2) アジア・オーストラレイシア麻酔学会 (AACA)

President, Treasurer を派遣する．2010 年日本大会開催準備のために事業計画，予算に基づき AACA 実行委員会でプログラムを決定し，日本，各国の委員に課題を連絡する．会場，ホテル，および業者に委託する部分を決定する．

3) 留学受け入れ奨励

2006 年度までは海外留学希望者を募集し，奨励していたが，2007 年度より海外からの留学希望者を通年に渡り募集する．

4) アジアン・シンポジウム

2007 年度開催のアジアン・シンポジウムの企画立案，運営を行う予定．2010 年の日本大会開催に向けてアジア諸国との連携を深める．

5) アジア諸国講師派遣募集について

積極的にアジア地区と交流を持ち，講師派遣等を行う予定．

8. 普及啓発活動

市民公開講座を 7 回開催し，正しい麻酔科学と医療の普及啓発を行う予定．

各支部学術集会開催時あるいは 10 月 13 日「麻酔の日」近辺の日程で，「麻酔」をテーマに計 7 回の市民公開講座を開催する予定．麻酔博物館の企画を行う予定．

9. その他目的を達成するために必要な事業

各種委員会活動を通じて事業目的を達成する．各委員会とも事業内容によって，実務を執行する専門部会，ワーキンググループを組織し，積極的な事業展開に努める．

1) 総務委員会

管理・運営に関する事項，規則に関する事項，選挙に関する事項，あり方に関する事項，事業計画・事業報告の作成，その他庶務に関する事項について審議・執行する．随時，理事会委嘱事項を検討する．関連省庁，医療関連団体等と渉外活動を展開する．公益法人改革に伴う公益社団法人申請の準備，事務局内の総務として，会員管理等をはじめとした総合システムの構築について検討する．

麻酔台帳のあり方，女性医師の積極的な活用について検討する．また周術期の麻酔業務をコメディカル

の関係を含めて整理を行うこととなり、例年組織されていた将来構想検討専門部会、社会保険専門部会の他に麻酔台帳検討ワーキンググループ、女性医師活用検討ワーキンググループ、周術期管理チーム検討ワーキンググループ（仮称）を組織する。

将来構想検討専門部会では、中・長期計画の最終調整、それに基づいた事業実施状況の確認等を行う。

社会保険専門部会では、平成 20 年度改正に向けての要望をとりまとめ、2007 年度外保連診療報酬要望書を作成、医療制度に関する情報収集を行う。これらを各諸団体にフィードバックし、麻酔科診療への正しい理解を要望する。

2007 年度選挙については、副会長選出選挙を実施し管理する。投票方法は全て送付による投票とする。

2) 財務委員会

予算・決算に関する事項、資産の管理・運営に関する事項、各種事業費に関する事項、その他財務に関する事項について協議、答申、執行する。予算書・決算書、貸借対象表・財産目録・正味財産増減計算書の作成、事業費・管理費のバランスおよび支部会計収支計算書と事業報告のチェック、基金・引当金の設定と管理を行う。特別会計の学術集會会計、各支部会計に関する連結決算・予算表を作成する。公益社団法人の会計基準、税金対策について周知徹底する。

3) 学術委員会

学術委員会では、機関誌の編集・発行に関する事項、学術集會の運営に関する事項、麻酔科学用語に関する事項、学会賞に関する事項等を中心課題として協議、答申、執行する。各事項の調査、審議は内容に応じて専門部会に付託する。

機関紙専門部会では、Journal of Anesthesia の引用を増やすため、昨年度に引き続き JA シンポジウムの企画運営、学術集會企画専門部会では、学術集會の運営の方針、今後の学術集會プログラムの作成テーマの検討を行う。2009 年森田潔会長時の学術集會プログラムの検討を始める。

3) 倫理委員会

倫理委員会では、麻酔科関連領域の医学・医療の倫理に関する事項を検討する。

4) 教育委員会

教育委員会では、新認定制度実施に伴う問題点の整備、教育ガイドライン、生涯教育ハンドブック改訂、後期臨床研修での麻酔科選択者の志望理由・満足度調査、専門医実態調査と将来予想、認定医・標榜医のための講習会内容とテキスト作成、運営マニュアル作成、認定病院に対する看護師の麻酔補助役割の実態調査、実地試験のあり方検討・指導医のあり方と業務内容、卒前教育の各施設における実態調査、第 6 回リフレッシュャーコースの実施、第 7 回リフレッシュャーコースの立案等を行う。

認定審査委員会は認定医、専門医、指導医、認定病院の審査、認定を行う。

5) 安全委員会

安全委員会では、麻酔関連のリスクマネジメントに関する事項について協議、答申執行する。委員会は各ワーキンググループの相互の事業内容をトータルに把握し、国民のためのよりよい安全な医療を提供することを目標とする。インシデントの収集、機器および手技の安全性確保、薬剤乱用防止施策の検討等を行う。具体的な事業は「5. 研究及び調査の実施」の通り。

6) 国際交流委員会

国際交流委員会では、国外の諸団体との交流を促進する目的に沿って事業を行う。AACA2010 に向けてアジア諸国との交流をはかるため、第 54 回学術集會時にアジアン・シンポジウムを開催する。留学

補助制度 60 万円を引き続き行う予定であったが、検討の結果受け入れ費用として予算立てすることとなった。Trauma care2008 実行委員会についてはラスベガス大会，ASA での広報活動，プログラム検討を行う。AACA2010 については，プログラム作成委員会の開催，ASEAN 麻酔学会，南アジア麻酔学会での広報活動を行う。WCA2016 の誘致活動については，第 6 回通常総会で承認をもって行う。

7) 関連領域検討委員会

関連領域委員会では，麻酔科医の活躍の場として，関連領域を紹介し麻酔科医のフィールドの広さを多くの医師，学生に周知し，学会としてよりよい業務環境を整える目的に沿って事業を行う。各領域での現状，問題点を挙げた。第 54 回学術集会でこれらの領域についてシンポジウム形式で公表する。次年度は，新たに小児麻酔領域，心臓麻酔領域のワーキンググループを立ち上げる。

8) 広報委員会

広報委員会では，一般市民に対する広報活動としての継続した市民講座の開催，新聞広告，小説発売，ドラマ作成，学術集会時，民間業者を媒体とした学生，スーパーローテータに対する継続的な働きかけ，ニューズレターの編集・発行に関する事項，ホームページの運営等に関わる事項等を協議，答申する。

9) 支部管理委員会

支部管理委員会は，支部事業，会計の運営を円滑にするために各支部での問題点を整理した。支部長，支部事務局の職務を明確にする。

10) 麻酔博物館企画委員会

麻酔博物館企画委員会では，時系列で麻酔に関する機器，器具の集約を行い，博物館の企画について検討する。

11) ハラスメント対策委員会

ハラスメント対策委員会では，様々なハラスメントに関する対策を行う。

以 上